

## 国分寺市現庁舎用地複合公共施設 図書館運営協議会へのヒアリングについて

### 1. 実施概要

現庁舎用地複合公共施設の基本設計にあたり、運用を見据えた施設計画に係るご意見を伺うため、国分寺市図書館運営協議会の正副会長及び識見に対してヒアリングを行った。

日 時：令和6年2月6日(火)

場 所：恋ヶ窪公民館 講座室2

内 容：①第1回市民ワークショップの報告

②新しい施設について

新施設計画の際、運用を見据えた配慮事項や必要検討事項を伺う。

### 2. 頂いたご意見（主な意見）

- ・実務として、図書館はなるべく1か所に固めて出入口も固定し、管理の目が行き届くようにするほうが運用しやすいように感じる。
- ・ブックディテクション（盗難防止）システムを導入したからといって、ブザーが鳴っても素通りしたりと完全に持ち出しを防ぐ効果までではないが、機械があることによる抑止効果はあるように思う。
- ・フロアーイメージの例1は通り抜け型となっており、どのような設えを想定しているかは不明であるが、このような形態をとるのであれば、壁で区切らず高さのない花壇などで区分けする方が利用向上に対する効果があるように思う。
- ・本が目に触れて興味を持って手に取るといった流れをつくるほかに、どのように居心地よく滞在するのかといったことも図書館においては重要である。そのため、自由度の高い利用者の居場所が必要であると考え。それらをフリースペースでつくっていくことが予想されるが、図書館プラスαでどう過ごすかといったことを考えてほしい。
- ・動と静について、図書館は一般的には静の部分が大きいように考える。その中で動をどのように捉えるかが重要。おしゃべりや討論、こどもが本を片手に自由研究といったものが予想されるが、動の空間をガラス張りで区切るといった事例はある。動と静をどのように共存させていくのが課題である。

- ・通り抜け型については通路が緩衝空間となるため動と静の区分けは行いやすいように思う。ただ、通路を挟んで2つに分かれてしまうため、貸出窓口の配置は検討する必要がある。真ん中の通路は一直線ではなく、湾曲させてもおもしろいのではないか。
- ・ピロティ形状について、中間期などの比較的過ごしやすい気候の際は利用できるが、寒い時期の利用は見込めないのではないか。常時開放されているのではなく、冬は間仕切りで区切り寒さをしのげるといったものが良いように思う。図書館の利用向上においては、外から利用している様子が見えるといったことも重要であるため、見せることと快適に利用することを共存させる必要がある。そういった意味では、ガラス張りは有効であるように思う。
- ・地下階の閉架図書について、他市の事例として、管理用通路を設け、集密書架を二層分確保して蔵書を稼いでいる。少ない面積でも恋ヶ窪図書館の現在の蔵書数はきちんと確保してほしい。
- ・集密書架は、湿気対策をはじめとする環境管理は行ってほしい。
- ・開架図書について、本棚の通路と通路の間をバリアフリー条例等に則って配置していくのであろうが、所持している蔵書数をきちんと配架できるのか疑問。どのような棚の高さ、配置、配架となっていくのか収容能力を含め提示してほしい。
- ・蔵書の収納能力を計算式により求め書架の配置、安全管理（防犯カメラ）を設計に落とし込む必要がある。
- ・今回の事業において、隣の民間活用施設とのつながりを考えたときに、複合公共施設内の通路を駅から民間施設への近道とする、モールのように設えるなど積極的に利用し、民間の方へ導くことで経済的収益の向上も見込めると考える。近年の図書館は集客施設としての位置付けをされている。図書館が1階にあることで、オープンな属性を持たせ、図書館の持っている吸引力を利用できる側面があるように思う。その上で、1階は「ぶらり」・2階は「わざわざ」、1階は「オープン」・2階は「クローズ」、1階は「にぎやか」・2階は「静か」といった機能を徹底的にわけて、一般的で保守的な図書館にならないような工夫をしていくほうが、良い施設となるように考える。
- ・図書館は集客施設であり、重大な役割を担う施設と考える。